

催眠奴隷館 02 みさき
(体験版バージョン)

2013/10/5

Var. 2. 02

サークル名…ケチャップ味のマヨネーズ

「催眠奴隷館 02 みさき」・登場人物表

■みさき（22）

某県の交通課の婦警

お客様（試聴者）がスピード違反をした際に取り締まりを行った。

仕事として事務的に行っただけなので、もちろんお客様の顔は覚えていない。

毎朝小学生の通学路の横断歩道で黄色い旗を持って子どもたちを迎えている。

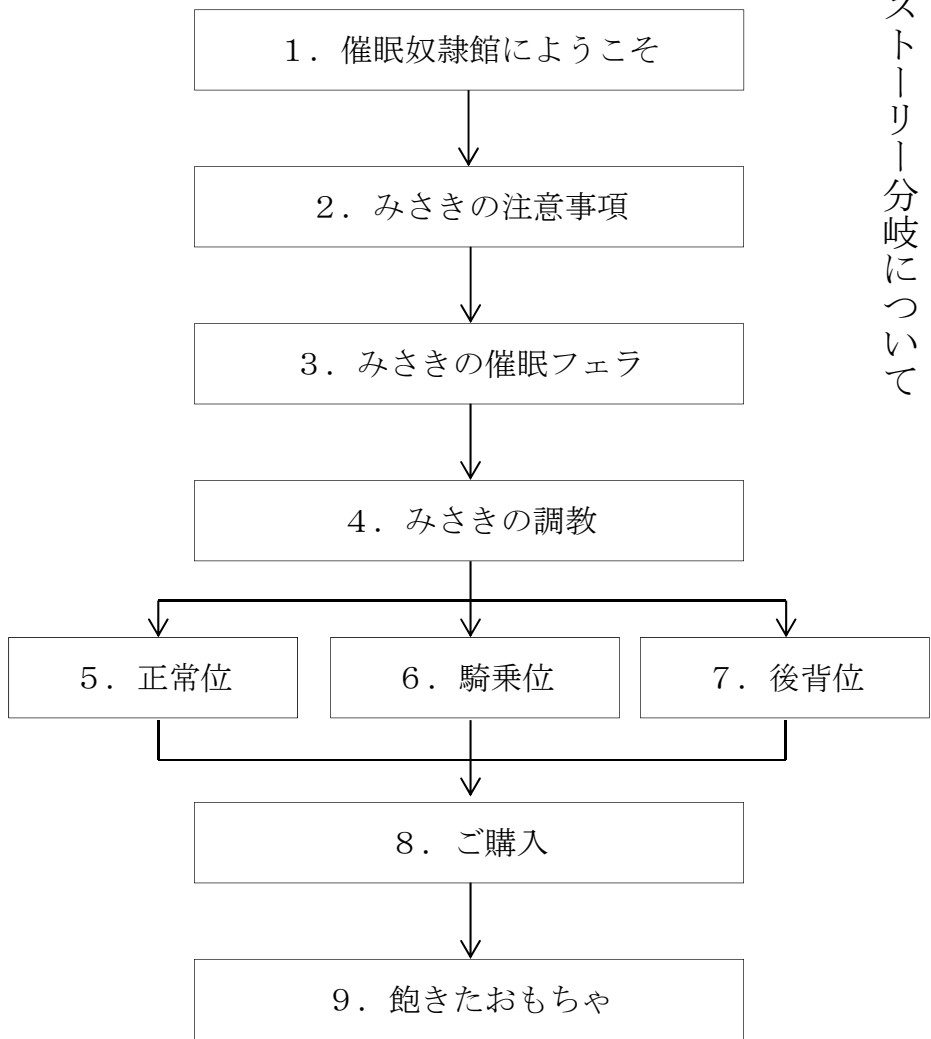
小学生からとても人気があり「旗のお姉さん」とよばれている

小学校の男子児童と男性教師のあいだではアイドル的存在

柔道初段、合気道2段、剣道3段、そろばん4級

あと、サブミッションとか得意

ストーリー分岐について



催眠パートは常に明るく楽しそうに、幸せそうに

1.

催眠奴隷館にようこそ

「あは、いらつしやいませ、ようこそ催眠奴隷館へ」

「あは、本日の商品はわたくしみさきです」

「え？ なにをおどろかれていますか？」

「お客様がわたしをオーダーしたのでしょ？」

「ですから、こうやって、お客様のオーダー通り

普段の仕事の制服で商品をご用意いたしました」

「あは、商品説明の前に、まずは催眠奴隷についてのご説明をさせていただきます」

「もうご存じかもしれませんが、一応ご説明するルールになっておりますので」

「あは、催眠奴隷は、その名前の通り催眠にかかっております」

「もちろんわたくしみさきも、現在催眠にかかっております」

「あは、この催眠は、音に反応して催眠をかけたり解除したりすることができます」

「お客様のお手元にあるリモコンのボタンを押しますと、ぼーんという音がします」

「あは、ぼーんという音が鳴ると、かかっている催眠は解除されます」

「あは、そしてまた、ぼーんと言う音が鳴ると、再び催眠にかかるという感じです」

「あは、なんとなくおわかりになりましたでしょうか？」

「口で説明するよりも、実際にお試し頂いた方がわかりやすいと思いますので」

「よろしければそのリモコンのボタンでお試しいただけますでしょうか」

「あは」

（少し間を開ける）

（ぼーん）

「・・・え？・・・な・・・なにここ？」

「どこなのここ？」

（少し間を開ける）

「ちょ・・・ちよつと・・・あなた・・・ここはどこですか？」

（ぼーん）

（少し間を開ける）

「あは・・・いかがですか？ おわかりになりましたか？」

「それでは、商品を実際にお試し頂いて、気に入って頂けましたら

ご購入のご検討よろしく願いたします」

「今回はお客様のオーダーで取り寄せた商品ですがお客様がお試し頂いて、

気に入らない場合は、お代のお支払いは結構です」

「あは、その際は、商品は催眠を解いて、もとの生活に戻します」

「もちろん、催眠を解いた際は、この催眠奴隷館で起こったことは全て忘れますのでご安心ください・・・あは」

「ところで、今回のオーダーは、お客様がスピード違反で取り締まりを受けた婦警とだけお伺いしましたが、わたしのこの顔で間違いありませんよね？」

（少し間を開ける）

「あ、あっていましたか」

「あは、それはよかったです・・・あは」

「え？ 名前も日付も何もわからないのに、どうしてわたしが特定できたかって？」

「あは、それは企業秘密ですお客様」

「催眠奴隷館では、お客様のご依頼でしたら、どのような内容でもお引き受けいたします」

「もちろんこのような特別オーダーでご成約となった場合は、通常価格の10倍を頂くことになりますが・・・あは」

「え？ よく婦警を催眠奴隷にできた・・・ですって？」

「あは・・・それも企業秘密ですお客様」

（ぼーん）

（少し間を開ける）

「な・・・何・・・え？ わたしがここに来る前、最後に何してたかって？」

（少し間を開ける）

「仕事で上司によばれて・・・」

「交通課のわたしなんか特別な任務に参加とかなんとか・・・」

「あれ？・・・その後（あと）どうしたつけ・・・」

（ぼーん）

「あは、あまり詮索（せんさく）しない方がいいと思いますよー」

「お客様は希望する商品をお試し頂いて、気に入って頂いたら、ご購入頂く」

「お客様もハッピー、催眠奴隷館も商品が売れてハッピー」

「催眠奴隷もお客様のものと飼われることができてハッピー」

「みんなハッピーじゃないですか。それ以上はなにも必要ありませんよね？」

（少し間を開ける）

「あは、では、商品のお試しタイムをはじめたいと思います」

「あ、お客様、お試しの際は衣服は脱いでおいでくださいませ」

「あは、それでは、存分にお楽しみください」

「あは」

2. みさきの注意事項

「あは、それでは始める前に注意ですが・・・」

（少し間を開ける）

「わたし、柔道初段、合気道2段、剣道3段、そろばん4級です・・・あは」

（少し間を開ける）

「あと、サブミッションとか得意です・・・あは」

（少し間を開ける）

「何おびえてるんですか？ お客様、大丈夫ですよ」

「わたしが暴れてお客様に怪我させないように、まずはじめに、わたしの手を背中で縛ってください」

「あは、お客様、ロープはこちらです、きつく縛ってくださいね・・・あは」

（少し間を開ける）

「ちゃんと縛ってくださいね、緩かったらお客様が大変なことになりますよ」

「あは」

（少し間を開ける）

「あ、そういえば縄抜けとかあるじゃないですか？」

「あれ、やり方知ってます？」

「あれのコツは縛られるときに手首を縦に重ねた状態で縛られるようにするんですよ？」

「そうすれば、縛り終わった後で、少し手首を回転させて横に重ねる状態にすれば」

「・・・」

「ほら、こんなふうにロープがゆるんで縄から抜けられるって感じですよ。あは」

「・・・」

「あれ？ 折角お客様に縛ってもらったのに、ロープとれちゃいました」

「このまま始めなくてよかったですね・・・あは」

（少し間を開ける）

「何おびえてるんですか？ お客様、大丈夫ですよ」

「手首だけじゃなくて、ちゃんと腕を重ねて縛れば、わたしでも縄抜けできません」

「あは」

（少し間を開ける）

「あは、できましたね。お客様ありがとうございます」

「この縛り方なら、絶対はずせませんね・・・あは」

（少し間を開ける）

「何心配そうな顔してるんですか？ お客様・・・ホントですよ？・・・あは」

「あと、足も縛っておきますか？」

「え？ いいんですか？ そうですか・・・」

「あは、ではこのまま始めましょうか」

「ところで蹴りのポイントは、重心を安定させることなので重心がしっかりとしていれば、たとえ座ったままの状態でも勢いよく蹴ることができたりするんですよ・・・あは」

（少し間を開ける）

「え？ やっぱり縛るって？ はい、わかりました・・・あは」

（少し間を開ける）

「はい、ありがとうございますお客様。足もしっかり縛れましたね」

「あは、これでわたしは何もできません」

「お客様、好きなようにして頂いて結構ですよ・・・あは」

（ぶちっ）（制服を横に無理矢理広げて、制服とブラウスのボタンが外れる音）

「あっ・・・」

「お客様、わたしのっぱいいかがですか？」

「おおきいでしょ？」

「わたしのいる交通課の中で一番おっきいんですよ？」

「それに毎日トレーニングしてますから、形もいいでしょ？ あは」

「・・・」

（ちゅ）（おっぱいにキス）

「あん」

（ちゅぽつぽじゅるじゅるちゅぽちゅぽ）（おっぱいをなめ回す。吸い回す）

「あん・・・やん・・・お客様気持ちいい」

「わたしおっぱい感じるの・・・すごくいい」

「乳首のどこ・・・乳首のどこすっごく感じちゃうの」

「あは、もっと・・・もっと吸ってー」

（ぽーん）

「ひっ！ な・・・何っ？！ や・・・やめろっ！」

「やめろっ！ おまえやめろっ！」

「くっ・・・縛られてる・・・？！ 足も・・・」

「おまえっ！ おまえ何をやってるかわかってるのかっ！」

「あっ！ やめろっ！」

（ぽーん）

「あん、あん、おっぱい気持ちいい・・・もっと・・・もっと・・・」

(ぽーん)
「くっ！ や・・・やめっ！ くっ・・・」
(ぽーん)
「はあはあ・・・もつと吸って・・・いっぱい吸って・・・」
(ぽーん)
「くっ・・・んん・・・あっ・・・」
(ぽーん)
「はあはあ・・・」
(おっぱいしやぶり終了)
「はあはあ・・・はあ」
「はあ・・・あは」

3. みさきの催眠フェラ

「あは、なんですか？ お客様」

「お客様のそれをしゃぶれ・・・ですか？」

「あは、もちろんよろこんでしゃぶらせていただきますお客様！」

「あっ・・・ひとつ注意しておきますね、お客様」

「しゃぶってるときにわたしの催眠解除したらお客様噛みちぎっちゃうかも」

「あは」

（少し間を開ける）

「お客様、なにおびえてるんですか？」

「大丈夫ですよ！ コツがあるんですよ、コツが・・・あは」

「しゃぶるのを中途半端にわたし主導にすると何するかわかりませんからね」

「お客様がわたしの頭を抑えて無理矢理奥まで突っ込んでいれば
噛みちぎることはたぶんできません・・・あは」

「まあ『たぶん』ですけど・・・あは」

（少し間を開ける）

「だから、催眠を解除する前にまずはわたしの頭を両手で抱えて
催眠解除と同時に激しく頭を前後させてくださいね！」

「あは、じゃあいいですか？・・・ペロ・・・ペロ・・・」

「ちゅ・・・じゅぽ・・・れろろ・・・んっ・・・んん・・・」

「ん・・・ん・・・じゅぽじゅぽ」

（10秒フェラ）

「じゅぽじゅぽ・・・んっ・・・」（お客様が頭を抑える）

「んっんっ・・・」

（ぽーん）

「んっ?!」

（じゅぽじゅぽを激しくする）

「んーーーーーっ！ んーーーーーっ！ んごんんーーーーーっ！」

「んおんがおんんんーーーーーっ！」

（15秒激しくもだえる）

「んごんんんっ！ んんんんんんんぶはっ！」（フェラ終了。口を離す）

「うぷ・・・ううう・・・」（嘔吐をこらえる）

「うあ・・・う・・・あ・・・あ・・・はあ・・・はあ・・・」

「お・・・お・・・おまえ・・・おまえ・・・」

「はあ・・・はあ・・・」

（ぼーん）

「はあ・・・はあ・・・」

「あは、大丈夫でした？ お客様」

「あ、ついてますね！ よかったです・・・あは」

（少し間を開ける）

「あは」

4. みさきの調教

「あは、催眠解除したときのわたしってどんなです？」

「あ、やっぱ生意気ですか？」

「あは、そうですねー」

「よし、じゃあ、お仕置きしちやいましょう・・・あは」

「え、全然いいですよー」

「めっちゃくちやきつついお仕置きしちやってください」

（少し間を開ける）

「そのの鞆の中に入ってるの出してもらえますか？」

「そう、そこ、そこ」

「・・・」

「うん、それ、それ」

「・・・」

「ふふ、スタンガン」（楽しそうに）

「あは」

「・・・」

「え？ やり過ぎじゃないかって？ へーきへーき」

「あは」

「・・・」

「実はこのスタンガンちよつと改造してあつて、それほど威力はないんですよ」

「だから失神することはありません」

「あは、ちよつと押してみて」

「・・・」

（びびびびつ）

「あは」

「・・・」

「え？ 威力が弱そうに思えないって？」

「・・・」

「うん。でもまあ大丈夫でしょう。あは」

「・・・」

「これでわたしを思いっきり調教してやってください」

「そこに張り付け台ありますよね」

「わたしをその張り付け台に、大の字に張り付けちやいたいと思います」

「生意気なわたしが、スタンガンで服従させられる……」

「いいですね！」
（明るく楽しそうに）

「あは、じゃあ、ちよつと足と腕をほどいて頂けますか？」

「んしょ」

「じゃあ、そこに大の字になって・・・両手両足をその金具に通して・・・」

「あは、お客様、その金具を固定してもらえますか？」

(少し間を開ける)

「あは、これでもうわたしここから逃げられません」

「あは」

(ぽーん)

「・・・？」

「な・な・なにこれ」

「ちよ……な……お……おまえか……」

「何をする気だ？」

「こんなことやってもおまえ捕まるだけだぞ？」

「今ならまだ強姦未遂程度で済むから・・・」

「だから……」

(ぽん)

「あは・・・あれ？ わたし何か言っていました？」

「え？　今やめれば強姦未遂ですむって？」

「あは、あはは、あはははは、あはははははははははは」

「大丈夫ですよーお客様。ここは催眠奴隷館ですよ？」

「何があってもお客様の安全は保障しますよ」

「あは、それにしてもホントに生意気なわたしですね！」

「もう、おもいつきお仕置きしてあげてください」

「あは」

(ぽーん)

「おい……だからもう……」

(くちゅ・・・) (股間をまさぐる音)

「なっ！ や、やめろ！ 罪が重くなるだけだぞ！」

(くちゆくちゅ・・・)

「くっ・・・うぐ」

(くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ) (以下ループ)

「うあ・・・んん・・・く・・・んっ・・・」

「こ．．．こんなことしてただですむと思ってるのか？」（震えながら）

「刑務所暮らしがしたいのか？」

「馬鹿なことはやめろ．．．くっ．．．」

（クチュクチュ終了）

「はあ．．．はあ．．．」

「今ならまだやり直せるから．．．わたしを自由にしなさい」

（少し間を開ける）

（びびびびっ！）（スタンガンを股間に当てる）

「ひぎっ！」（思いつきのけぞる）

「あ．．．あ．．．あ．．．」

「な．．．なに．．．ス．．．スタン．．．ガン．．．？」

（びびびびっ！）（スタンガンを股間に当てる）

「ひい！」

「あ．．．あ．．．あ．．．あ．．．」

「や．．．やだ．．．助けて．．．お願い．．．」

「あ．．．あ．．．ゆる．．．ゆるして．．．」

「あ．．．ん．．．あ．．．あ．．．」

「おねがい．．．ゆるして．．．」

「．．．」

（ぼーん）

「はあ．．．はあ．．．はあ．．．」

「なんか．．．なんか、今わたしすごいドキドキしてる．．．」

「あは．．．わ．．．わたし、なにか言ってました？」

「はあ．．．はあ．．．あは．．．急に弱々しくなったって？」

「あは．．．あはは、おっかしー」

「もっと、もっとやっちゃってください」

「あは」

「え？　ほんとにいいのかって？」

「いいのいいの、わたし本人が言ってるから、いいに決まってるじゃないですか」

「あは」

（ぼーん）

「はあ．．．はあ．．．」

（くちゅくちゅくちゅくちゅ）（股間をまさぐる）

「あ．．．あ．．．やだ．．．や．．．やめて．．．」

「はぁ．．．はぁ．．．お願い．．．あなたの罪が重くなるのよ．．．」

（クチュクチュをとめる）

（びびびびっ！）

「ひいーーーーー！ あ．．．あ．．．」

（再びクチュクチュ再開）

「あ．．．あ．．．だ．．．誰にも言いませんから．．．」

「捕まえるとか言いませんから．．．びりびりだけは．．．」

「びりびりだけはやめてください．．．」

「はぁ．．．はぁ．．．あ．．．あ．．．」

「くっ．．．んん．．．いっ．．．んあ．．．」

「あああああああああ」

「い．．．いきそう．．．や．．．やだ．．．やめてください．．．」

「あああああああああああああ．．．」

「やあああああああああああ」

「いく．．．ん．．．やだあああああああ」

「いっちやう．．．やめて．．．もうやめて！」

「いっちやうから！ おねがい！ お願いだから！ お願い！」

「いいいいいいいっ！ いやあああああああっ！」

「あっいくっ．．．いくっいくっいくっいくっいくっ」

「いっちやう！ いくいくいくいくいくいくいくいく」

（クチュクチュをとめる）

（びびびびっ！）

「ひあああああああああああ！」

（じよろよろよろろ）（放尿音）

「あ．．．あ．．．あへ．．．あ．．．あ．．．あ．．．あ．．．あ．．．あ．．．あ．．．」

（くちゅくちゅくちゅくちゅ）（クチュクチュ再開）

「あっ．．．あっ．．．んん．．．んあ．．．」

「とめて．．．とめて．．．い．．．いっちやったから．．．」

「さっきいっちやったばかりだから．．．とめて．．．むり．．．」

「もう無理だから．．．いっちやったあとすごく敏感だから．．．」

「おねがい．．．やだ．．．とめて．．．やだ．．．」

「んんん．．．んく．．．ん．．．あ．．．ぐ．．．」

「あ．．．んあ．．．やだあああああああああ」

「すごく敏感だから！ いっちやった後はすごく敏感だからっ！」

「お願いっ！ とめて！ とめてっ！」

「お願いします！　お願いします！　とめてください！」

「すごく敏感なんですっ！
いいいいいいいいいいいい！」

「いやあああああああああああ！」

「いくつ！　いくつ！　またいくつ！」

「んっ……くっ……無理っ！ いっちやう！」

「いやあああああああ、やあああああああ」

「~~~~~」

「やあああああああああああああ」

(クチユクチユをとめる)

(びびびびっ！)

「いぎいいいいいいいいいいいい！」

(ふしゆ)
(潮を吹く)

「あ
・
・
・
あ
・
・
・
あ
・
・
・
あ
・
・
・
あ
・
・
・
」

「あ
・
・
・
あ
・
・
・
あ
・
・
・
あ
・
・
・
あ
・
・
・
」

「はあ．．．はあ．．．はあ．．．はあ．．．」

「はあ．．．はあ．．．はあ．．．はあ．．．」

「はあ・・・はあ・・・はあ・・・はあ・・・」

(ぽーん)

「あは．．．あは．．．はあ．．．はあ．．．」

「なんか……すごく気持ちいいの……あは……あは……あは……」

(ぽーん)

「はあ……はあ……たすけて……おねがい……」

「はあ……はあ……たすけて……たすけてください……」

「あなたのことは誰にも話しません」

「ぐすつ……たすけて……ぐすつ……おねがい……たすけて……」

「ぐすつ……ぐすつ……」

(ぽーん)

「あは・・・どうでした？ わたし・・・」

(少し間を開ける)

「あは？ 泣きながら助けを求めてた？」

「あは・・・あはは・・・あははは」

「あははははははははは」

（以下笑い声が続く、そしてフェードアウト）

5.	正常位	
	(製品版をお求めください)	
6.	騎乗位	
	(製品版をお求めください)	
7.	後背位	
	(製品版をお求めください)	
8.	ご購入	
	(製品版をお求めください)	
9.	飽きたおもちゃ	
	(非公開)	

10.

サークル挨拶音声

「サークル、ケチャップ味のマヨネーズ」

「この度は本作品をご購入いただきありがとうございます」

「本作品は音声作品です。イヤホンやヘッドホンなどを使用して

椅子に座ったり、ベッドに横になるなどしてリラックスした状態でお聞き下さい」

「この作品ではあなたはお客役として登場して頂きます」

「是非お客様になりきってご試聴をお楽しみください」

「音声に気をとられすぎて椅子やベッドから落ちたり、物にぶつかるなどして

怪我などしないようお気をつけ下さい」

「また、イヤホンやヘッドホンの端子が抜けていることに気づかず

スピーカーから大音量で本作品を再生した場合

あなたの人生に深刻な問題を発生させる恐れがありますので

くれぐれもご注意ください」

「それでは、本編をお楽しみ下さい」

11.

体験版ダウンロードの案内音声

「この度は体験版をダウンロードいただきありがとうございました」

「体験版をご試聴いただき、気に入っていただきましたら

製品版をご購入いただけるととてもうれしいです」

「今後ともサークル、ケチャップ味のマヨネーズをよろしくお願いいたします」